

## 会 議 録

1 会議名

令和5年度 第2回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和5年5月23日（火） 午後6時30分から午後7時37分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：竹内浩行（会長）、伊藤善一（副会長）、保坂裕子（副会長）  
市村 学、伊藤光夫、小山和美、荏戸 正、平田 清、平田伸一、  
山口典夫、吉田一彦、渡部弘美
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、滝澤副所長、石黒係長、  
難波主任

8 発言の内容

**【難波主任】**

- ・ 12人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は竹内会長が務めることを報告

**【竹内会長】**

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：吉田委員、渡部委員に依頼  
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・資料により説明
- ・次第に基づき、議題の確認

【竹内会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

— 次第3議題（1）地域活性化の方向性について —

【竹内会長】

次第3 議題（1）地域活性化の方向性について に入る。

前回の会議では、「地域活性化の方向性」の素案について意見交換し、その結果を踏まえて修正した最終案を本日お示しすることにした。

事務局より説明を求める。

【難波主任】

- ・資料No.1 により説明

【竹内会長】

- ・今ほどの説明に質疑を求める。

【平田伸一委員】

私の意見だが、一つは文章の中で真ん中に「・」があるものを、他の書き方に換えられないのか。もう一つは、「〇〇の〇〇」と「〇〇を〇〇する」という書き方が混在しているので整理したらどうか。文章の中の「・」だが、前文の文化と歴史の間に「・」があるが、これはひらがなの「や」に変えればつながると思う。それから、構成要素の下から2段目に「伝承・保存」とあるが、ここも「や」でつながると思う。下の「文化的・歴史的意義」のところは、普通の文章の中の「、」にすればつながると思う。それから、「〇〇の〇〇」と書くと意味がよくわからなくなるので、「〇〇を〇〇する」のほうがよいと思う。「魅力を発信する」と書いてあるが、それと同じように、例えば、「ブランドを推進」とか、「地域産業の農業をいかした三郷米や農産物のブランド化の推進」と「の」が続く。こうなると意味がよくわから

なくなるので、「ブランド化を推進」がよいのではないか。次の「春駒」のところも1行目「歴史的文化財発掘等の活動継続を支援し、それらの文化的、歴史的意義を共有」という書き方のほうが、意味としてわかりやすいような気がする。

**【山口委員】**

前回より内容がわかりやすくなっている。平田伸一委員の意見は、文言の整理として有りかと思う。私は総体的にまとまっていると思う。

**【竹内会長】**

今回、最終的な形としたいので、一人ずつ意見を聞きたい。

**【渡部委員】**

他の地区を参考にすると、三郷区のような表現のものもあれば「です、ます」調のものもある。私は、内容はこれでよいと思うので、特に直さなくてもよいと思う。

「・」に関しては考えてもよいと思うが、「の充実」や「の推進」というところに関しては、今のままでも他の区のものを見るとよいのではないか。

**【吉田委員】**

よくまとめられている。平田伸一委員が言われた「・」については、好みの問題ではないか。インパクトを与える意味で「の」を「を」にするのであれば賛成である。

**【平田清委員】**

確かに「の」が二つ続くのはあまりよくはないと思う。「を」に変えるということについては、それでもよいのかと思う。「・」がついているところを「や」という形にするかどうかは好みの問題かと思う。

**【荏戸委員】**

文章的にはよいのではないか。下から二つ目のところが、一番頭に点がついて、そのあと点が続くと文章として見づらいという気はするが、そこまで大きくこだわらなくてもよいのではないか。

**【小山委員】**

このままでよい。

**【伊藤光夫委員】**

三役と事務局で協議して決めた文章なので、これでよい。私は、伝統芸能の「春駒」を市のほうで、この活性化の方向性をこれからの参考にしていただけるということで、三郷区としては「春駒」という名前を入れていただいたのはよかった。

**【市村委員】**

三役と事務局が考えた内容で、すっと頭に入ってきたので、このままでよい。

**【保坂副会長】**

「・」に関しては好みの問題であるし、私たちなりに検討を重ねたので、これでよい。

**【竹内会長】**

皆さんから修正案に対して意見をいただいた。ほとんどの委員がほぼこのままでよいといった意見であるし、平田伸一委員からの意見では、「・」のものや「の」を「を」に変えるという修正案が出てきた。三役と事務局で大分頭を悩ませたが、他区の活性化の方向性も完成してきたので、それに感化されてなかなか決めがたいところがあった。そのような中でまとめたものである。「・」と「の」を「を」に換える意見があったが、他の区では「・」も多用されている。三郷区では、地域活性化については、他区より時間をかけて検討を重ねてきたので、この辺で締めくくればよいと思う。今後の流れの中で変更も可能なので、原案のとおりとしてよいか。いろいろな意見を聞きながらたたき上げてきた地域活性化の方向性の案について、締め括りをしていただけないかと思っている。これで、三郷区の活性化の方向性が決まるが、今後の流れの中で、変更が可能なものであり、完成系というよりもある程度の三郷の方向性を決めるものと思うのでいかがか。今回、三郷区の活性化の方向性ということで出した素案で完成形として決定したいと思うが、いかがか。

(よしの声)

それでは、この案を三郷区の地域活性化の方向性としていきたい。

次に、この活性化の方向性を今後どのように三郷区の中で活用していくか、地域の皆さんに発信していくかについて、皆さんと話し合いをしたい。

事務局に説明を求める。

**【大島所長】**

昨年4月にこの地域活性化の方向性の作成について説明した資料の中で、作成目的として三点があった。その確認からする。

一点目は、議論を進める中での委員間の認識の共有、二点目として、地域協議会と市の認識の共有、三点目として、市の取組の企画の参考である。

これらを作成目的として記載した。これについて補足として、一点目については、地域の活力向上に向けた議論の過程において、また、その中で地域住民や地域活動団体との意見交換などを通して、様々な地域課題や地域の魅力などに関して「こんな地域になってほしい」「このような地域の問題点を解消したい」といった委員の皆さんの思いが生まれてきていると考えている。そうした思いを地域活性化の方向性という形で明文化することで、委員間で共有して一定の方向性に向かった自主的審議の活性化につなげていただきたい。

二点目と三点目の関係では、地域協議会と市の認識の共有、市の取組の企画の参考については、地域協議会において様々な地域課題の解決に向けて議論した中で、委員の皆さんの思いが明文化されることで、地域自治区の事務局が地域協議会の事務局として協議会の自主的審議などの取組に対して、関連する情報収集はもちろん、その方向性に沿った支援やアドバイスをよりの確に行うことができるようになるし、併せて市の各課においても、その区の中で何か事業をする際に検討の参考としていくことも可能になると考えている。活用の考え方だが「必ずこうして下さい」というものではないので、飽くまでも一つの例としてお話しする。まずは、地域のいろいろな活動団体等々にこの活性化の方向性を共有していただき、理解いただくことによって、地域の団体等を巻き込んだ地域独自の予算の提案などに役立てていただきたいと考えている。さらに、前回の会議の中で会長からも話があったが、委員各自の地域活動や情報発信等の場面において、それぞれの活動分野に該当する構成要素を念頭に置いて、どのように行動を発信することが最も効果的か意識することにより、地域活性化の方向性の理念が実効性を持って地域に広がっていくことも期待している。地域活性化の方向性は、一度作成して終わりというのではなく、委員の皆さんや地域の実情の変化等に応じて適宜見直しを加えていただき、その内容を深め充実させたいと考えている。前回、意見があった他の区の状況として活性

化の方向性を作成した後、どのような状況になっているかだが、地域政策課で把握している範囲では、地域活性化の方向性を作成した後で、次の具体的な事業提案などに結びつけた事例はまだ承知していないということであった。そうした状況の中で、地域活性化の方向性の活用について、地域協議会の皆さんが自ら話し合いをしていただくことは、非常に意義があるものだと思っているので、ぜひ皆さんからいろいろな意見を出していただければありがたい。

#### 【竹内会長】

今ほど事務局から、地域活性化の方向性の今後の活用について、説明と他の区の事例等の話を伺った。他の区の作成した後の動きが気になったので、動きのある区があれば、事例として話しを聞くことができるとお願いした。そのような中で、三郷区の地域活性化の方向性として我々がどういう形の中で方向づけして、活用できればよいのかも三役で話しをしてきた。皆さんの中でこんな意見があるというのを伺いたいと思い時間をいただいた。自分だったらこういうところで、こういう活動の中で、こういうところをいかしていく、この方向性をいかしていきたいという流れなど考えをお持ちの方がいれば、意見をいただきたい。委員の皆さんの中にはいろいろな地域の団体や組織の中に関係している人もいるので、今回、この方向性のこの部分をいかして、このような形で動いてみたいという意味があればそれも含めた形で話していただければと思っている。委員一人ずつ意見をいただき、今後の動きの参考にしていきたい。

#### 【保坂副会長】

皆さんで地域活性化のためにどんな視点で行えば三郷区がより活性化ができるか、実際できるかどうかは別問題として、皆さんで話し合ってきたことはとてもよかった。私の気付かない部分もたくさん指摘していただいた。今置かれている三郷の地域の状況を考えると今まで公民館の問題もあって、公民館の問題を取り扱うのも今後、三郷区が地域活性化するために新しい公民館がどうあればよいかということで、ハード面とソフト面と両方の面から話し合ってきた。公民館については、地域が活性化するためという視点で話し合ってきたので、三郷小学校の問題の結論が出たと同時に公民館の問題と跡地の問題をどうしていくか、この地域を挙げて、

子どもたちから高齢者も含めた上で、どのような形のものがよいのかを話し合っていきたい。それをしながら、こんな活動もしていきたい、あんな活動もできると。例えば、とてもよい景色があるので、みんなで時々回って写真を撮って、それを公民館に順番に飾ってみるなど、いろいろなことをやりながらアイデアが出てくると思うので、そのようなことをしながら、人と人とをつなぐ活動ができればよい。

#### 【竹内会長】

私は、三郷の農業が気になっている。20代の頃、三郷の米のブランド化を目指したことがある。三郷米（みさとまい）という名前で企画して農協の担当とも動いたが、上層部には受けが悪く、ことごとく潰されてしまった。これからほ場整備が進んでいく中で、大きくなるほ場を利用した三郷米の農産物のブランド化の推進が、私の中で一つの目標にしていきたいことである。いろいろな場面で発信していきたいと思っている。

#### 【伊藤副会長】

現在、「春駒」の伝承活動に携わっている。「春駒」もこのような場があったから前に出てきたものだと思うので、もしかしたら、今はもうないが、昔はこういうものがあったというのがあれば、それがまた皆さんと違う意味でいろいろな活動の輪を広げるものにもなると思う。この「春駒」を通じて、三郷以外の地域外の「春駒」とのつながりができれば、三郷区もいろいろな人に知っていただいて、注目を浴びる活動もしていきたい。三郷区でホームページができ、今のこの風景の写真をアップして、外からも注目される地域を目指せればと思う。

#### 【市村委員】

「地域の活性化」と考えたときに、若い人から高齢者まで、幅広い年代がバランスよくいる場所だという思いがある。その中で、構成要素の二つ目で、「田園と山々が織りなす四季折々の美しい風景を守り」というところで、どうしても空き家が気になってしまう。空き家と、そこに付随する整備されていない木がすごく気になっている。私個人としては、空き家問題を解決して、空き家にまた新たな住民が入ってくるような形をとれば、年齢構成も、どんどん若者が減って行って高齢者が増えていくという状況を多少なりとも改善できるし、鬱蒼と茂った木がなくなり景観も

よくなると思う。空き家の問題は、地域だけではどうにもならないと思うので、行政にも入っていただいて地権者と折衝しながら、何とかしたいと考えている。

#### 【伊藤光夫委員】

私が三郷区の中で何を行えるか、特別思いつくことはないが、地域の皆さんに早めに周知し、こういうことを地域協議会で決めたので、地域の皆さんの意見を聞いて、委員の中でまたそれを参考にして話し合っただけ進めていくのもよいと思う。上越タイムスの記事で、人や会社をリレー方式で紹介していく欄があったが、三郷の人でも載っていた。三郷区でも、皆さんに知られずに一人で活動している人がいるので、そのような人も取り上げながら、この地域として皆さんに知っていただければと思う。

#### 【小山委員】

「春駒」という言葉を拾っていただいたが、これに関する活動ができた意義が大きだと思う。遡ってみれば、今回、私が委員になる機会を設けていただいたこともありがたかったし、意義のあることに携われたことに対しても、すごくありがたかった。DVDが完成したが、それで終わりではないし、これから踊り手を募っていかなくてはならない。さらに、指導できる人をもっと増やしていかないことには伝承や保存も難しいと思っているので、終わりが見えない活動だと感じている。今まで知らなかった地域活性化に携わっていただけることもすごくありがたいと思うし、もっと地域の人たちにも知ってもらえたらよい。

#### 【荏戸委員】

構成要素をできるだけ万遍なく盛り込んで何かできればよい。私が考えていたことの一つは、イベントである。現状は、活動団体がたくさんあるが、いずれも以前よりも活動がしにくくなっていると思う。活動できる人が少なくなっているのであれば、各種団体が全て揃って、一つのイベントをすることができれば人数も確保できる。なぜイベントかというと、例えば、次世代を担う人材を育成しようと思ったら、何か活動を通して実際に体を動かして指導する。また、イベントによって地域の魅力の発信もできるのではないか。アクセスの活用は思いつかないが、イベントの中で、例えば、農業を生かしたブランド化を進めるような農産物の販売は取

り込めるし、伝統芸能の「春駒」は、伝統芸能を続けようと思ったら、披露していく場を提供することが必要なのではないか。これがないと何を目的にやっているのかがわからなくなって、だんだんと衰退していくのではないか。地域の子どもから高齢者まで全員が参加できるイベントがよいのではないか。

**【平田清委員】**

この地域活性化の方向性ということで、これまで3回ぐらい議論をしてきた。先ほどの事務局からの説明のとおり、何のためにやっているのかというところで、委員間の認識の共有がある。これをまとめるに当たって、あれだけ議論をしてきたということで、この内容について共有化はされているのではないかと考えている。次に、どう使うかという話になったときに、これ自体が余りにも漠然とした表現で「三郷にはこういうよいところもある」「こうしていったほうがよいのだが」というところまでしか書いていなくて、具体的なものは何も出ていない。一度、この地域活性化の方向性から離れた形で、これから、自主的審議事項をやらなければならない。これ自体が自主的審議事項の題材になるかと言われると難しい部分もあるが、自主的審議事項を検討していく中で、これを使っていければよいのではないかと考えている。

**【平田伸一委員】**

一つ目は、昨年12月に地域の団体の方々から、いろいろな意見をお聞かせいただいた意見交換会があった。方向性を今度、具体的に進めるとなれば、集まっていたいただいた団体の代表者の方々に「このような議論の経過でこのように方向性ができました」と知っていただくのが一番だろう。

そのための会議を開くべきである。そして、昨年9月をぎりぎりの期限として、地域独自の予算の提案も慌ただしく行ったが、そのことも含めて、もう一度地域の団体の方々から集まっていたいただいて、意見交換する場が必要だろう。また、9月を期限としてまとめると思うので、7月頃に予定しないと間に合わない状況ではないか。ボールを投げてもらったわけだから、ボールを返さなくてはいけない。そのような対応をしなくてはいけないと思っている。

二つ目、私は、まちづくり振興会の事務局長という立場があるが、まちづくり振

興会との関わりをどういう形で具体化させていくのかである。まちづくり振興会でも地域の活性化や福祉の充実など、いろいろなことを事業内容、あるいは目的の中に掲げている部分があるから、その辺りとの整合というか、一緒に行っている部分は何なのか。一緒に行くというよりも、私たちが何をやるかであり、このような提供をするだけでよいのかということがある。「あなた方なんか、絵に書いた餅ばかりじゃないの。実際、何をしているの」と言われている部分もある。地域協議会委員という立場で、どうやってこの実効性を担保していくのかがすごく大事なことだと思う。その一つの手段として、まちづくり振興会との関わり方を詰めていくという具体的な対応があってよいのかと思う。

#### 【山口委員】

考えていることは、皆さん一緒なのだと思って聞いていた。地域協議会で委員として行うのは限界がある。平田伸一委員がおっしゃったとおり、まちづくり振興会や町内会長連絡協議会、各団体と意見を交換しながら進めていくのがベストなのだろう。ベターでもよい。私たちの任期ももう少しで終わるが、種をまいて、また次期の委員に花を咲かせてもらうような役割でもよいと思っている。上越市創造行政研究所ニュースレター「創造行政」No.52に2022年11月5日開催の上越教育大学でのフォーラムの内容が掲載されている。「徳島県神山町のまちづくりに学ぶ」ということで、その中に「遊び心もあってよい」と講師の方がおっしゃっている。私個人の意見だが、形にはまった、こうしなくてはいけない。1+1=2でなくてはいけない。そういうことをしていると行き詰るのだと思っている。遊び心を考えながら、間違ったことがあったら修正する。そのようにしていけばよいのではないか。これを進めるに当たり、あと少しの任期だが、他の団体の皆さんといろいろ話し合っただけでも種をまければよいと思っている。それには、自主的審議のテーマを挙げてもよいのではないか。

#### 【吉田委員】

構成要素をどうやって具体化していくかであるが、今まで皆さんが言われたように、各種団体への周知というのが大切だと思う。2行目に「魅力の発信」という文言があるが、この魅力については、例えば、広報誌、SNS、動画、ラジオ、ホー

ムページ、それからポスターやチラシがある。広報誌については、ほとんど市や町のみで発行しており、小さいところで発行しているところは、なかなか難しいということもあるので、例えば、制作や編集を業務委託して、それに予算をつけていただいて、三郷の魅力を発信する。SNSでは、ツイッターやフェイスブック、動画については、ケーブルテレビやYouTube等で配信できればよいかと思う。一例だが、魅力の発信については、いろいろなものが出ているので、その中で有効なものを使っていければよいと考えている。

### 【渡部委員】

この自主的審議事項で具体化することを計画すると「春駒」のように、実行する委員たちがまちづくり振興会の役員と重複することもあり、いろいろ心配事もあるが、荻戸委員や市村委員がおっしゃったように地域を知るイベントをやるのがよいのかと思う。例えば、これからであれば、西松野木に蛍は今もいるのか。そういうことを計画して、行って写真を撮るとか、桜の名所というか、地域の桜が咲くところをみんなで回るイベントをすることか、地域の間が動くような活動を計画すれば面白いかなと思っている。外の人を呼び込むのであれば、竹内会長と同様に「貸し農園をしたらよいのではないか。畑はたくさんあるし」と提案したら、長者町に農協の理事が来たときに、一発で「駄目だ」と言われた。「これだけ畑が余っているのだから、農協を通して信頼性のある人、準組合員でもよいから、その人がしっかり農園をすればよいのではないか」と言ったが、「一人の意見でそんなことができるわけがない」と潰された。外の人を呼ぶのであれば、長者町ではないが、三郷をランニングしている人がいるので、そういうランニングできるようなところを整備するのもよいと思っている。私もホームページを作ったらよいのではないかと思う。それは簡単なものでよいので、地域の住民が自分たちで作る講座も合わせて、ゆっくりでよいので作っていく。そして、地域の人が出してくれる写真などを紹介していくと、知らないものも必ず上がってくると思うので、面白さを持たせたらよいのではないかと思った。それも、パソコンも触ったことのないような高齢者に作ってもらうのが面白いかと思った。私も、パソコンに初めて触ったときに、「絶対に壊れないから心配せず好きなようにやれ」と言われた。怖がっている人もパソコン

に触れる機会を提供していくのもよいのではないか。

**【竹内会長】**

委員全員から地域活性化の方向性について、どのような活用の方法を考えているのか意見をいただいた。皆さん、いろいろな方向性を持っているのだなと感じた。機会があるごとにこの話を出しながら、また自ら委員として動いていただければよいと思っている。今日の意見を元に、残された任期の中で、花は咲かずとも次期の委員が咲かせてくれるぐらいの感覚で、急がず焦らずでよいと思う。皆さんに発信しながら、ホームページにも掲載されるが、なかなか見る機会のない人もいるので、何らかの方法で地域の方々に知らしめていきたい。先ほど事務局からも話があったが、この方向性にとどまらず、まだまだ進化していく地域活性化の方向性であればよいと私も思っており、書き直しもできる。本日は、皆さんから活性化の考え方や発信の方法などいろいろな意見があったので、それを元にいろいろな場面の中で行動していければよいと思う。

**【平田伸一委員】**

自主的審議事項を審議できる期間は、あと一年もない。ただ、今まで掲げてきたものは、今年の12月に終息している。一定の成果があったということで、それは評価できることだと思う。先ほど「絵に書いた餅」と言ったが、これを委員として何ができるのかと考えたら、自主的審議事項を地域の現状を見つめた中からチョイスしなくては駄目なのだと思う。結論は出ないかもしれないが、そういう現実に対して向かっていくという、我々委員の姿勢を示さなくてはならないので、自主的審議事項も一つ終わったが、次はもうそのように立ち上がっていかなくてはいけない。

**【竹内会長】**

当然、これにとどまらず、自主的審議事項に移行しながら、皆さんとまた十分協議していきたいと思うので、来月以降の話の中で、また自主的審議事項の課題等の話も出てくると思う。それはどういう形のものなのかを皆さんといろいろな課題を協議していきたい。それが意見書として行政に上げられるようなものができればと思っており、また皆さんとよい協議をしていきたい。

他にどうか。

**【渡部委員】**

三郷小学校の統廃合に関わるアンケートの結果がどうなっているか、知っていたら教えてほしい。

**【竹内会長】**

町内会長協議会で出てきた意見を取りまとめて、教育委員会に提出している。我々にはまだ出てこないのので、今回の28日の説明会のところに何らかの形で出せればと思っている。明日、会議があるのでその中でも対応していきたい。

以上で、次第3 議題（1）地域活性化の方向性について を終了する。

— 次第4 事務連絡 —

次第4の事務連絡に入る。事務局より説明を求める。

**【滝澤副所長】**

- ・第3回地域協議会：6月20日（火）午後6時30分から 三郷地区公民館
- ・第4回地域協議会：7月25日（火）午後6時30分から 三郷地区公民館
- ・その他の配布物：和田区、大潟区地域協議会の「地域活性化の方向性」

男女共同参画推進センターのチラシ

委員宛で「地域自治の推進に向けたヒアリング調査」というお願いの文書と調査票を送付している。調査票記入と回答の協力をお願いしたい。来月の協議会の際に受付で提出いただきたい。

**【竹内会長】**

- ・事務局の説明について、質問を求めるがなし。
- ・全体を通して、質問を求める。

私から、先ほど渡部委員から話があったように、5月28日に小学校の適正配置の関係で、教育委員会が地域住民に説明会をするという案内文について、町内会を通じて皆さんもご覧になっていると思う。地域協議会委員として皆さんには全員に説明会に出席していただきたい。教育委員会の説明は、受けているところだが、今

後、新たな話も出るのではないかと考えている。集まった地域の皆さんからの考え方や、いろいろな違った意見も聞ける場面だと思う。今後、地域が学校適正配置を合意した場合に、我々地域協議会は、諮問、答申という大事な役割があるので、そのことも踏まえながら、ぜひとも説明会に出席いただきたいと思います。地域の皆さんが、小学校の適正配置のことについて、どのような意見やどのような不安を持っているか肌身に感じる場面だと思うので、出席をお願いしたい。

本日の議題は全て終了した。

- ・会議の閉会を宣言

## 1 0 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

## 1 1 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。